

最前線で活躍するスタッフのみなさんへ

Frontliner

[フロントライナー]

11

2025 vol.45



クリーンスタッフのためのビジネスマナー講座

レベルアップ清掃作業 キホンの“キ”



日本保健衛生協会

クリーンスタッフのための
ビジネスマナー講座

第11回

安全確保はよい仕事の証

私たちが日常の清掃業務を円滑に進めるうえで、もっとも大切なことは「安全の確保」です。

安全が守られていなければ、どんなに丁寧な清掃を行っても、その成果は十分に発揮されません。万が一事故が起きれば、本人が怪我をするだけではありません。お客様に不安や不便を与え、さらには一緒に働く仲間にも迷惑や負担をかけることになります。一人ひとりが安全意識を高め、仲間やお客様と連携して作業を行うことで、現場の信頼と品質が向上します。安全はだれか一人の責任ではありません。全員で協力して築き上げるものです。「安全第一」を念頭に置いて、日々の業務に取り組みましょう。

安全確保に大切な6のこと

を防ぎ、建物の安全性を高めます。

① 標準作業手順書(作業マニュアル)

- 清掃業務は一見単純に見えますが、実際は多くの注意点があります。標準作業手順書はその注意点を体系的まとめた「安全の指針」です。
- 手順書を正しく理解し、手順通り作業することで、事故やトラブルを未然に防ぐことができます。
- 特に電気機器の使用方法や薬品の取り扱いは、誤った方法で行うと大きな事故につながるため、必ず手順書を確認・順守することが大切です。

② 異常の発見

- 清掃作業は建物の隅々まで目を配るため、異常を発見する最前線に立っています。
- 床の破損や水漏れ、異臭・異音など、利用者の安全につながる異常を見逃さないことが大切です。
- 発見した以上は「小さなことだから」と放置せず、現場責任者や本社担当者に報告することで、事故

③ 共同作業

- 清掃作業は一人で完結する作業がほとんどですが、広いフロアや緊急対応の場合など、複数人で作業します。
- 共同作業では、「声をかけ合う」ことが大切です。お互いの動きや状況を確認し合うことで、接触事故や作業の重複を防ぎます。
- 重いものを運ぶ際や危険な個所の清掃では、必ず複数人で協力し、無理をしないことが安全確保につながります。

④ 整理整頓

- 清掃用具や資材が散乱していると、転倒や衝突の原因になります。整理整頓は安全の基本です。
- 使用後の用具は必ず決められた場所に戻し、通路や階段など人の通行を妨げないようにします。
- 整理整頓されている現場は、作業効率も上がり、現場の信頼感も高まります。

クリーンスタッフのための
ビジネスマナー講座

⑤ 資機材の保全点検

- 掃除機や床洗浄機などの機材は、日々の使用で劣化します。定期的な点検を怠ると、作業能率が低下するだけでなく、突然の故障や事故につながる恐れがあります。
- 電源コードの破損やブラシの摩耗など、目に見える異常はすぐに確認し、必要に応じて修理や交換を行います。
- 機材を安全に使い続けるためには、使用前後の点検と定期的なメンテナンスが欠かせません。

⑥ 危険予知活動

- 危険予知活動（KY活動）は、作業前に「どんな危険が潜んでいるか」を予測し、対策を考える取り組みです。
- 例えば「床が濡れると滑る」「電源コードが通路にあるとつまずく」といった具体的な危険を事前に話し合い、注意喚起します。
- 危険を予測し、標識の設置や保護具の着用などの対策を徹底することで、事故を未然に防ぐことができます。

● 健康チェックリスト

1. 睡眠は十分ですか？

前夜に十分な睡眠（6～8時間）が取れているかを確認します。

2. 朝の体調はどうですか？

起床時に頭痛・めまい・倦怠感がないかを確認します。

3. 朝食は摂りましたか？

朝食を抜かず、栄養バランスの取れた食事を心がけます。

4. 水分補給は意識していますか？

作業前や作業中、こまめに水分を摂っているかを確認します。

5. 体調不良が続いていませんか？

発熱や咳、強い疲労感などがないかをチェックします。

6. 作業前にストレッチしていますか？

軽い準備運動で筋肉をほぐし、腰痛やケガを予防します。

まずはしっかりした健康管理

体調の良し悪しは、作業の質や効率に直結します。不調のまま業務に取り組めば集中力が低下し、作業の遅れやミスを招くだけでなく、思わぬ事故につながる危険もあります。安全な職場環境を築くためには、まず自分自身の健康を保つことが大切です。



レベルアップ

清掃作業 キホンの“ギ”

No. 11

建築物清掃の基本作業(ほこりの除去)

ほこりとは

● ほこりとは何か

床や机、家具などの表面に積もる細かい粉状の付着物を「ほこり」といいます。主なものは以下のとおりです。

土ぼこり：外から持ち込まれる土や砂の粉末

綿ぼこり：衣類や布製品から出る纖維くず

これらに花粉や髪の毛、食べかすなどが少しづつ混じり合って、日常的に発生します。

● ほこりの性質

ほこりは非常に軽く、風や人の動きによる空気の流れで簡単に舞い上がり、室内に浮遊します。そのため目に見えない状態でも存在していることがあります。

● 健康への影響

ほこりの中には、人の健康に悪影響を及ぼす物質が含まれる場合があります。とくに以下の点に注意が必要です。

- ・カビの発生源になる
- ・ダニの繁殖を助ける
- ・アレルギーや呼吸器系の不調を起こす恐れがある

● 清掃の重要性

ほこりを取り除くことは、単なる見た目の美化ではなく、環境衛生を守るために大切な業務です。日常清掃では、ほこりを確実に除去することが求められます。

ほこりの予防

建物内のほこりを減らすには、次の2つの視点から対策を行うことが重要です。

- ①ほこりが外部から入るのを防ぐ
- ②ほこりが内部で発生するのを防ぐ

① ほこりの侵入防止

建物内にほこりを入れないことが第一歩

建物内のほこりの多くは「土ぼこり」で、風に運ばれたり、物に付着したりして持ち込まれます。とくに多いのは、靴の裏に付着して入ってくるものです。

入口での対策が重要

建物の入口では、靴の履き替えや洗浄は難しいため、入口に除塵マットを設置するのが効果的です。適切なマットを置くことで、靴から持ち込まれるほこりの約70～80%を防ぐことができるといわれています。

カーペット床の場合は特に注意

カーペットは繊維の間にほこりが入り込むと除去が難しいため、入口に除塵マットを必ず設置し、持ち込みを防ぐことが大切です。

除塵マットの清掃を忘れない

ほこりを取るはずの除塵マットが汚れていては効果がありません。マットは常に清潔に保ち、毎日1回以上、丁寧に掃除するようにしましょう。

② ほこりの発生防止

ほこりが発生する主な原因

建物内ではほこりが生じるのは、主に次のような要因によります。

- ・人間の動作や行為(歩行、作業など)
- ・摩耗しやすい建材や衣類から出る繊維や粉末

室内管理の基本

発生したほこりをできるだけ飛散させないように工夫することが大切です。

具体的な対策例

- ・作業時に出たたばこの灰やシュレッダーくずは、飛散しない容器に入れて処理する。
- ・清掃作業は、ほこりを舞い上げない方法(湿式清掃や掃除機など)を選ぶ。

ほこりの除去方法

● 吸着によるほこりの除去

静電はたきは、静電気の力でほこりを吸着する清掃用具です。壁面や照明器具などに付着したほこりを効率的に除去できます。



静電はたきの使用方法

・静電気を起こす

静電はたきを軽く振って静電気を発生させます。

・ほこりをなでるように除去する

壁面や棚、照明器具などを軽くなでて、ほこりを吸着

させて取り除きます。はたいてほこりを舞い上げないように、軽くなでて使用します。

● 拭き取りによるほこりの除去

マイクロファイバークロスやタオルにほこりを付着させて除去する方法を拭き取りと言います。ほこりを飛散させることなく、



ほこりを取り除くことができます。拭き取り方法には、乾拭きと湿拭きがあります。

乾拭きによる拭き取り方法

乾いたクロスやタオルの繊維に付着させてほこりを除去します。少量のほこりの除去に適しています。

・軽い力で拭く

強くこすると素材を傷つける可能性があるため、軽い力で表面をなでるように拭きます。

・一定方向に拭く

円を描くように拭くとムラが出やすいので、直線的に一定方向に拭くと仕上がりがきれいになります。

湿拭きによる拭き取り方法

クロスやタオルに少量の水を含ませると、水が媒介となってほこりの付着効果が高まります。

・クロスやタオルを軽く湿らせる

クロスやタオルに少量の水を含ませて使用します。水が多いと素材を傷めたり、拭き跡が残ったりするので、必ず固く絞って使用します。

・クロスやタオルの衛生管理を徹底する

使用後は必ず洗って乾燥させます。湿ったまま放置すると雑菌が繁殖します。